

結婚をするとかみさんが家事の一切を仕切るので、当初、夫の立場が曖昧となる。

ある時はバカ殿様、また、部屋でごろごろしているとき、掃除機がガーガーと突入してくるのでたまらず逃げ出す。

こんな時は間借り人か、居候の気分になる。

独身時代は愛用のプラスチックの洗面器に石鹸とタオルを入れて風呂屋に行ったものだ。

この洗面器とは長年、裸のつきあいだった。

それが新婚当初のこと、何とトイレに置かれトイレの掃除用具入れになっていた。

今やかみさんは家事の全権を掌握し、新体制を目指し、矢継ぎ早にこれを実施している。

その一環としてこの洗面器にトイレ勤務の辞令を出した。

長年の経験は考慮されなかったか。

せめて風呂場勤務はかんがえられなかったのかと思うのである。

ところが、風呂場には新規採用のピカピカの新人洗面器が張り切っている。

そういえば、リストラにあった者どもは少なくない。

下着をはじめ衣類などは捨てられ、あるものは、ウエスや雑巾になった。

こうして独身時代は跡形もなく去って行った。

思えばこの洗面器とは長年のつきあい、いわば裸のつきあいだった。

トイレにいたときこの洗面器にいったものだ

「洗面器よ、私に人事権はないのだ。すまない！こらえてくれ！」

Hidekuro

